

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	生物の世界					授業形態	講義		
科目コード	130300	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	飛田 洋								
授業概要	公立学校理科・生物教員等（中学3年、高校2・1年、高校校長2年）26年、県教育委員会職員（県教育長等）18年、環境省環境カウンセラー20年の経験を活かして、高校までの学びを踏まえるとともに、地球環境問題と生物の関わりを意識した講義を行います。この講義は、生物学の意義や人類との関わりについて理解を深めるために、生物学的基礎を幅広く身に付けることを目的としています。生物界には多種・多様な種類の生き物が存在（生物の多様性）していますが、一方で生物はすべて生物として共通の性質（生物の共通性）を有しています。この講義では、その中から人類との関わりを意識して多様な内容の学習を進めます。この講義は、生物学に興味がある人だけでなく、生物学はあまり勉強していない人、さらには、生物学の学びを深めたい人などの受講も希望します。そのため、前期の「生物学の基礎」を受講しなかった人でも理解できるような構成とします。気づきや発見のある授業を心がけ、学生諸君のこれからの学問追求の何らかのヒントになるとともに、教養として生き方に何らかの示唆を与えることも意識して授業を組み立てていきたいと考えます。								
関連する科目	前期で「生物学の基礎」という生物学の基礎を幅広く学ぶ科目が開講されていますが、その科目を受講しておくことを望みます。								
授業の進め方 と方法	アクティブラーニング型授業を意識した授業を展開します。授業の中で随時、学生に質問をする対話型の授業や、学生同士の討論、学生の発表等を取り入れた授業を行います。なお、授業計画は、授業内容として予定している項目を示しております。必ずしもこの項目を示した順序通りに授業を実施するのではなく、授業の順序は必要に応じて（例えば課題研究等々の関係で）入れかえます。								
授業計画 【第1回】	生活と生物学1 生物学を学ぶ意味や大学で教養を学ぶ意味について学ぶ。								
授業計画 【第2回】	生活と生物学2 身近な自然や博物館（植物園・動物園等）等の生物学について学ぶ。								
授業計画 【第3回】	生活と生物学3 人間の暮らしと生物学や暮らしの中の生物学について学ぶ。								
授業計画 【第4回】	生物の世界1 生物と無生物の違いや動物と植物の違いについて学ぶ。								
授業計画 【第5回】	生物の世界2 生物と種（生物の戸籍簿のつくりかた）について学ぶ。								
授業計画 【第6回】	生物の世界3 細胞から成り立つ生物の姿について学ぶ。								
授業計画 【第7回】	動物の世界1 動物の仲間をどう分けるかについて学ぶ。								
授業計画 【第8回】	動物の世界2 脊椎動物の進化と「ほ乳類」の世界について学ぶ。								
授業計画 【第9回】	動物の世界3 進化と退化（生き物はどう変化してきたか）について学ぶ。								
授業計画 【第10回】	植物の世界1 植物の仲間をどう分けるかについて学ぶ。								
授業計画 【第11回】	植物の世界2 植物はどう仲間を増やすのか（種子と発芽）について学ぶ。								

授業計画 【第12回】	植物の世界3 野外の植物の名前(種名)をどう知ることについて学ぶ。
授業計画 【第13回】	SDGsと生物1 環境と人間はどう調和して生きるかについて学ぶ。
授業計画 【第14回】	SDGsと生物2 生態系の保護等の視点から考え地球の今について学ぶ。
授業計画 【第15回】	講義のまとめ 生物学と暮らしについて学ぶ。
授業の到達目標	1 生物学特徴や人間の生活等との関連等について説明できる。【知識・理解の習得】 2 アクティブラーニングを通して、学友と共に学び合える。【コミュニケーション・スキルの育成】 3 授業内容を生活に生かすとともに、環境保護等について関心を持ち、これからも学ぶことができる。【生涯学習力の育成】【問題解決力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学修 【予習】	予習 次の授業の内容をあらかじめ示すので、その内容について、自分が知っていることや疑問点をまとめてくること。課題研究を課題として課すので計画的に進めること。 1時間
授業時間外の学修 【復習】	復習 授業を振り返り、その要点を整理しまとめ、その学習の内容を理解すること。 1時間
課題に対する フィードバック	小テストについては次回の授業で内容を振り返る。また、授業の疑問点についてもその解決の時間を設定し説明を行う。
評価方法・基準	(1) 授業態度等(授業態度・課題への取り組み等) 30点 (2) 小テスト 30点 (3) 定期試験 40点
テキスト	なし。ただし、必要に応じて授業用の資料を配付する。
参考書	初歩から学ぶ生物学 池田 清彦 角川ソフィア文庫 初歩からの生物学 二河成男 加藤和弘 放送大学教育振興会 目からウロコの生命科学入門 武村政春 ミネルバ書房
備考	小テストやレポートは出席管理にも使用します。